

問題5 . 等方性材料で成り立つ以下のフックの法則

$$x = \frac{1}{E} [\sigma_x - (\sigma_y + \sigma_z)], \quad y = \frac{1}{E} [\sigma_y - (\sigma_z + \sigma_x)], \quad z = \frac{1}{E} [\sigma_z - (\sigma_x + \sigma_y)]$$

$$\tau_{xy} = \frac{\sigma_{xy}}{G}, \quad \tau_{yz} = \frac{\sigma_{yz}}{G}, \quad \tau_{zx} = \frac{\sigma_{zx}}{G}$$

を用いて、以下の各問いに答えなさい。なお、以下の各問いの答えは、剛性率 G ならびにポアソン比を用いて表しなさい。

- (1) 単位体積当たりの弾性エネルギー U_e を、応力の関数として表しなさい。
- (2) 単位体積当たりの弾性エネルギー U_e を、ひずみの関数として表しなさい。
- (3) (1) で求めた解は、応力の第2不変量 J_2 とどのような関係にあるか求めなさい。
- (4) (1) の解を、主応力 $\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3$ ならびに主応力で表される第2不変量 J_2 を用いて表しなさい。

【解】

(1) フックの法則が成り立つ弾性変形では、単位体積当たりの弾性エネルギーは

$$U_e = \sigma_x d_x + \sigma_y d_y + \sigma_z d_z + \tau_{xy} d_{xy} + \tau_{yz} d_{yz} + \tau_{zx} d_{zx} \quad (1)$$

$$= \frac{\sigma_x \sigma_x}{2} + \frac{\sigma_y \sigma_y}{2} + \frac{\sigma_z \sigma_z}{2} + \frac{\tau_{xy} \tau_{xy}}{2} + \frac{\tau_{yz} \tau_{yz}}{2} + \frac{\tau_{zx} \tau_{zx}}{2}$$

で表される。ここで、一般化されたフックの法則を用いると、

$$U_e = \frac{\sigma_x^2 - (\sigma_x \sigma_y + \sigma_x \sigma_z)}{2E} + \frac{\sigma_y^2 - (\sigma_y \sigma_z + \sigma_y \sigma_x)}{2E} + \frac{\sigma_z^2 - (\sigma_z \sigma_x + \sigma_z \sigma_y)}{2E} + \frac{\tau_{xy}^2 + \tau_{yz}^2 + \tau_{zx}^2}{2G}$$

$$= \frac{\sigma_x^2 + \sigma_y^2 + \sigma_z^2 - 2(\sigma_x \sigma_y + \sigma_y \sigma_z + \sigma_x \sigma_z)}{2E} + \frac{\tau_{xy}^2 + \tau_{yz}^2 + \tau_{zx}^2}{2G}$$

$$= \frac{(\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)^2 - 2(1+\nu)(\sigma_x \sigma_y + \sigma_y \sigma_z + \sigma_x \sigma_z)}{2E} + \frac{\tau_{xy}^2 + \tau_{yz}^2 + \tau_{zx}^2}{2G}$$

$$= \frac{(\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)^2}{2E} - \frac{(1+\nu)(\sigma_x \sigma_y + \sigma_y \sigma_z + \sigma_x \sigma_z)}{E} + \frac{\tau_{xy}^2 + \tau_{yz}^2 + \tau_{zx}^2}{2G} \quad (2)$$

となる。ここで、(2) 式の最後の式の変換には、

$$(\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)^2 = \sigma_x^2 + \sigma_y^2 + \sigma_z^2 + 2\sigma_x \sigma_y + 2\sigma_y \sigma_z + 2\sigma_z \sigma_x$$

を用いた。

$$G = \frac{E}{2(1+\nu)} \quad (3)$$

であるから、

$$U_e = \frac{(\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)^2}{4G(1+\nu)} - \frac{\sigma_x \sigma_y + \sigma_y \sigma_z + \sigma_x \sigma_z}{2G} + \frac{\tau_{xy}^2 + \tau_{yz}^2 + \tau_{zx}^2}{2G} \quad (4)$$

となる。

(2) まず、一般化されたフックの法則より、

$$\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z = \frac{1-2\nu}{E} (\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z) \quad (5)$$

だから、

$$\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z = \frac{E}{1-2\nu} (\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z) \quad (6)$$

となる。同様にして、

$$\sigma_x - \sigma_y = \frac{1}{E} [\sigma_x - (\sigma_y + \sigma_z)] - \frac{1}{E} [\sigma_y - (\sigma_z + \sigma_x)] = \frac{1+\nu}{E} (\sigma_x - \sigma_y), \quad \sigma_x - \sigma_y = \frac{E}{1+\nu} (\sigma_x - \sigma_y)$$

$$\begin{aligned}
y - z &= \frac{1}{E} [y - (z + x)] - \frac{1}{E} [z - (x + y)] = \frac{1+}{E} (y - z), & y - z &= \frac{E}{1+} (y - z) \\
z - x &= \frac{1}{E} [z - (x + y)] - \frac{1}{E} [x - (y + z)] = \frac{1+}{E} (z - x), & z - x &= \frac{E}{1+} (z - x)
\end{aligned}
\tag{7}$$

を得る。ここで、

$$\begin{aligned}
&2(x + y + z)^2 - (x - y)^2 - (y - z)^2 - (z - x)^2 \\
&= 6(xy + yz + zx)
\end{aligned}
\tag{8}$$

となることに着目すると、これに(6)、(7)式を代入して、

$$\begin{aligned}
&xy + yz + zx \\
&= \frac{1}{6} [2(x + y + z)^2 - (x - y)^2 - (y - z)^2 - (z - x)^2] \\
&= \frac{E^2}{3(1-2)^2} (x + y + z)^2 - \frac{E^2}{6(1+)^2} \{ (x - y)^2 + (y - z)^2 + (z - x)^2 \}
\end{aligned}
\tag{9}$$

を得る。また、

$$xy = G_{xy}, \quad yz = G_{yz}, \quad zx = G_{zx}
\tag{10}$$

であるから、(6)、(9)、(10)式を(2)式に代入すると、

$$\begin{aligned}
U_e &= \frac{E(x + y + z)^2}{2(1-2)^2} - \frac{(1+)E}{3(1-2)^2} (x + y + z)^2 + \frac{E}{6(1+)} \{ (x - y)^2 + (y - z)^2 + (z - x)^2 \} \\
&\quad + \frac{G}{2} (xy^2 + yz^2 + zx^2) \\
&= \frac{(3-2)E(x + y + z)^2}{6(1-2)^2} + \frac{E}{6(1+)} \{ (x - y)^2 + (y - z)^2 + (z - x)^2 \} + \frac{G}{2} (xy^2 + yz^2 + zx^2)
\end{aligned}
\tag{11}$$

となる。(11)式に(3)式を入れて、

$$U_e = \frac{(3-2)(1+)G(x + y + z)^2}{3(1-2)^2} + \frac{G\{ (x - y)^2 - (y - z)^2 - (z - x)^2 \}}{3} + \frac{G}{2} (xy^2 + yz^2 + zx^2)
\tag{12}$$

を得る。

あるいは、

$$(x - y)^2 + (y - z)^2 + (z - x)^2 = 2(x + y + z)^2 - 6(xy + yz + zx)$$

であるから、(12)式に代入して、

$$\begin{aligned}
U_e &= \frac{\{ (3-2)(1+) + 2(1-2)^2 \} G(x + y + z)^2}{3(1-2)^2} - 2G(xy + yz + zx) + \frac{G}{2} (xy^2 + yz^2 + zx^2) \\
&= \frac{(5-9+2^2)G(x + y + z)^2}{3(1-2)^2} - 2G(xy + yz + zx) + \frac{G}{2} (xy^2 + yz^2 + zx^2)
\end{aligned}
\tag{13}$$

となる。

(3)(4)式において、応力の第2不変量は、

$$J_2 = -(xy + yz + zx - xy^2 - yz^2 - zx^2)$$

であったから、

$$U_e = \frac{(\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)^2}{4G(1 + \nu)} + \frac{J_2}{2G}$$

で表される。

(4) 単位体積当たりの弾性エネルギーを、主応力で表すと、せん断応力がないので、(4)式は

$$U_e = \frac{(\sigma_1 + \sigma_2 + \sigma_3)^2}{4G(1 + \nu)} - \frac{\sigma_1 \sigma_2 + \sigma_2 \sigma_3 + \sigma_3 \sigma_1}{2G}$$

となる。また、応力の第2不変量は、

$$J_2 = -(\sigma_1 \sigma_2 + \sigma_2 \sigma_3 + \sigma_3 \sigma_1)$$

であるので、結局、

$$U_e = \frac{(\sigma_1 + \sigma_2 + \sigma_3)^2}{2E} + \frac{J_2}{2G}$$

となる。

注意：応力の不変量がわからない場合には、以下の定義に従って求めなさい。主応力を求める定義式

$$\begin{vmatrix} \sigma - \sigma_x & -\tau_{xy} & -\tau_{zx} \\ -\tau_{xy} & \sigma - \sigma_y & -\tau_{yz} \\ -\tau_{zx} & -\tau_{yz} & \sigma - \sigma_z \end{vmatrix} \\ = (\sigma - \sigma_x)(\sigma - \sigma_y)(\sigma - \sigma_z) - 2\tau_{xy}\tau_{yz}\tau_{zx} - \sigma^2(\sigma - \sigma_x) - \sigma^2(\sigma - \sigma_y) - \sigma^2(\sigma - \sigma_z) \\ = \{\sigma^3 - (\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)\sigma^2 + (\sigma_x\sigma_y + \sigma_y\sigma_z + \sigma_z\sigma_x) - \tau_{xy}^2 - \tau_{yz}^2 - \tau_{zx}^2\} + \sigma_x\tau_{yz}^2 + \sigma_y\tau_{zx}^2 + \sigma_z\tau_{xy}^2 \\ = \sigma^3 - (\sigma_x + \sigma_y + \sigma_z)\sigma^2 + (\sigma_x\sigma_y + \sigma_y\sigma_z + \sigma_z\sigma_x - \tau_{xy}^2 - \tau_{yz}^2 - \tau_{zx}^2) \\ - \sigma_x\tau_{yz}^2 - \sigma_y\tau_{zx}^2 - \sigma_z\tau_{xy}^2 \\ = 0$$

より、

$$\sigma^3 - J_1 \sigma^2 - J_2 \sigma - J_3 = 0$$

ここで、

$$J_1 = \sigma_x + \sigma_y + \sigma_z$$

$$J_2 = -(\sigma_x\sigma_y + \sigma_y\sigma_z + \sigma_z\sigma_x - \tau_{xy}^2 - \tau_{yz}^2 - \tau_{zx}^2)$$

$$J_3 = \sigma_x\tau_{yz}^2 + \sigma_y\tau_{zx}^2 + \sigma_z\tau_{xy}^2 - 2\tau_{xy}\tau_{yz}\tau_{zx}$$

をそれぞれ、応力の第1、第2、第3の不変量という。